

令和8年度 教育計画						学校番号 30	
松山市立小野小学校						教職員数	男14
校長名	熊 広明	学級数	33 (8)	児童 生徒数	853		女32 計46

学校の教育目標

仲間とともに高め合う小野っ子の育成



「よりき松の教え」

校訓・児童像

よく考え
がんばる子

りっぱな行い
やさしい子

きまりを守る
元気な子

学ぶ力

- 1 合理的配慮に基づく個に応じた指導
- 2 「学び合い」学習
- 3 分かる授業の充実
- 4 自律的な学習習慣

豊かな心

- 1 仲間と高め合う集団づくり
- 2 気持ちのよい挨拶と返事
- 3 ふるさと小野を愛する心
- 4 特別支援教育、人権・同和教育の充実

健康な心と体

- 1 基本的生活習慣の定着と健康教育の推進
- 2 生徒指導の充実
- 3 自己管理能力の育成
- 4 防災・安全教育の推進

教職員像

教育愛に満ちた教職員
使命感に満ちた教職員
研修し高め合う教職員

学校像

愛顔あふれる学校
夢と希望を育む学校
開かれた学校

愛言葉：『子どもたちの愛顔と未来のために』
みんなの愛顔と幸福感につながる働き方改革

高め合う

「チーム小野を支える」「ふるさと小野を学ぶ」

自己有用感を育む

自分が好き・人が好き・学校が好き・小野が好き・人の役に立ちたい



重点目標	(1) 学ぶ力「自ら学ぶ力・学び合う力」の育成・・・「よく考え がんばる子」 ○ 合理的配慮に基づく個に応じた指導の推進 ○ 「学び合い」学習による思考力・判断力・表現力を育成する授業の展開 ○ 問題解決的な学習の推進と主体的・対話的で深い学びにつながる授業の創造 ○ よく分かる授業づくりの充実と自律的な学習習慣の定着 ○ 家庭や中学校との連携による 9 年間を見通したキャリア教育の推進 (2) 豊かな心を育てる教育の推進・・・「りっぱな行い やさしい子」 ○ 仲間とともに高め合い、支え合う集団づくりの推進 ○ 気持ちのよい挨拶と元気な返事の定着 ○ 郷土の自然や文化・伝統を尊重し、ふるさと小野を愛する心の育成 ○ 一人一人の教育的ニーズに応じた学びの場の工夫による特別支援教育の充実 ○ 人権尊重の精神を基盤とした人権・同和教育の推進 (3) 健康・安全教育の推進と生徒指導の充実・・・「きまりを守る 元気な子」 ○ 基本的生活習慣の定着と個に応じた体力づくりの実践 ○ 心身ともに健康な児童を育てる食育・健康教育の推進 ○ いじめ・不登校への適切な対応と一人一人に寄り添った教育相談の充実 ○ 自己管理能力を育成し、命を大切にする防災・安全教育の推進 ○ 学校・家庭・地域が一体となった児童理解と健全育成の推進
管理運営	(1) 人的管理 【認め・高め・支え合う人間関係】 ○ 温かい人間関係づくりと協働体制「チーム小野」の確立 ○ 教職員としての幸福感の醸成や心身の健康増進と休暇の有効活用 ○ 危機管理意識の高揚と「報告・連絡・相談・確認」の確立 ○ 服務規律の厳正な遵守による教職員の使命感の高揚と信頼の保持 (2) 物的管理 【教育環境の整備・活用と安全管理】 ○ 教育環境の整備と事故防止の徹底（潜在危険箇所の確認・対処） ○ 非常変災に備える防災体制の整備 ○ 施設・設備・備品の有効活用と適正な管理 ○ 地域と連携した学校施設の有効活用と適正な管理 (3) 事務的管理 【正確化・効率化・合理化】 ○ 適材適所の校務分担と協力体制による確実な遂行 ○ 個人情報等の適正な取扱いとセキュリティポリシーの徹底 ○ 効率的な事務処理と厳正な経理管理の実施 ○ 公文書の迅速・的確な処理
本校教育の特色	本校は、学校令により、1887 年(明治 20 年) 4 月に開校され、1890 年(明治 23 年) 1 月に小野尋常小学校と改称される。以来、令和 8 年で創立 136 年目を迎える。 ◇ かつての天然記念物「与力松」に象徴された伝統を踏まえ、先輩方によって築き上げられた明るく素直で心優しい校風の継承と発展に努める。 ◇ 郷土の文化遺産と自然の豊かさを生かした学習活動を展開し、「郷土愛」の精神を培うとともに、地域社会に根をおろし、生涯を見通した教育の推進に努める。 ◇ 学校・家庭・地域と願いや思いを共有し、地域に開かれた学校としての責任を自覚し教育活動の「改善と創造」に努める。 ◇ 幼・保・小・中の連携を深め、相互の連絡を密にし、学びの連続性や子どもの発達に応じたキャリア教育の推進に努める。